

令和4年(2022)1月『松子の里でしめ飾り作り』

12月5日、緑米の収穫を終えた松子の広場に、子どもから大人まで40人ほどが集まり、収穫後の稲藁を使って、正月のしめ飾り作りを行いました。

しめ飾りは、正月に歳神様を迎えるための飾りで、ごぼう締め、だいこん締め、輪飾りなどさまざまな形がありますが、三、五、七などの数の藁を垂らす九十九里浜式のしめ飾りを作りました。中には、ごぼう絞めのしめ飾りにチャレンジする人もいました。

最後に緑米で作った、甘いおはぎをいただき、今年の収穫に感謝しました。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)2月 『春を待つ松子』

冬でも水をためたままにしている松子の田んぼでは、たくさんの生き物たちが春をまっています。2月の初めに、アカガエルが冬眠していた土から出て、一斉に産卵すると、田んぼにはたくさんの卵塊が見られるようになります。水面が凍る日もありますが、その下でメダカやドジョウもじっと隠れ、暖かくなると姿を見せてくれます。

松子川にはたくさんのカワニナが見られますが、ゲンジボタルの幼虫は、これを餌にして暮らし、4月になると蛹になるために上陸します。土手や畔ぎわではホトケノザ、タネツケバナなど小さな草花がもう花をつけ始めています。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)3月 『ハートマークのカメムシ』

すっかり冬景色の里山ですが、今年は少雨のためか生き物の姿が少ないようです。

さて、昨年、初冬に背中にハートマークをつけたカメムシを見つけました。カメムシの仲間は悪臭を放つので嫌われる存在ですが、これだけ鮮明なハート模様がある生き物は珍しく、毎年、バレンタインデーが近づくと話題になる昆虫です。

成虫のまま木の皮の裏で越冬するため、真冬は姿を見せません。小型で1cm余りと小さく、メスは卵や幼虫を守る習性があります。「エサキモンキツノカメムシ(江崎紋黄角亀虫)」と言い、江崎は人名、紋黄は黄色いハートマークのことです。出会えたならラッキー！

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)4月 『トウキョウサンショウウオの産卵』

毎年春になると、一宮町の丘陵地帯には、トウキョウサンショウウオが産卵にやって来ます。今年は寒い日が続き、2月14日になってようやく三日月型のサンショウウオの卵が見られました。かつては、谷津田の水源など産卵に適した場所がたくさんありましたが、今では休耕田が増え、道端の側溝などに産卵してしまうこともあります。近ごろ、サンショウウオの卵を盗採し、販売する事例が増えたため、環境省では今年から全てのサンショウウオを採集禁止とし、違反者は罰せられます。一宮ネイチャークラブでは、サンショウウオの卵を守るため、監視カメラを設置し、パトロールを行って保護に取り組んでいます。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)5月 『サンコウチョウの初鳴き』

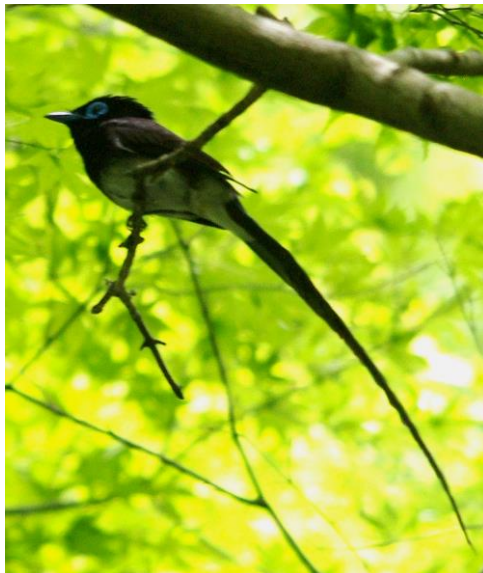
毎年5月になると、松子や周辺の洞庭湖、軍荼利山には、南の国で越冬し、日本で繁殖する夏鳥たちが渡ってきます。キビタキ、オオルリ、サンコウチョウなどがその代表ですが、とりわけサンコウチョウは「ツキ、ヒ、ホシ（月、日、星）」と聞こえる美しい鳴き声で知られています。最初に鳴き声が聞かれる日を「初鳴き」と呼びますが、この10年間の記録を見ると、平均は5月18日で、最も早い記録が2021年の5月4日、最も遅い記録が2019年の5月27日でした。このように、生物の初鳴きなどの記録を「生物季節」と呼びます。昨年、気象庁は職員による生物季節観測の一部中止を発表しましたが、生物季節の記録は気候変動の影響などを知る上でとても大切なものなので、環境省や国立環境研究所がボランティアの協力を得て継続されることになりました。今年の初鳴きはいつになるのか、今から楽しみです。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



(撮影：君島憲治)

令和4年(2022)6月 『松子の田んぼの田植え』

5月3日、松子の田んぼで、古代米（緑米）の田植えが行われました。昨年、一昨年は、コロナ禍のため大勢で集まって田植えをすることができませんでした。今年は状況が少し改善したので、子ども会も参加して賑やかな田植えとなりました。子どもが中心となって田植えをした田んぼでは、30センチおきに印をつけたロープを少しずつ動かしながら、一步一步前に進んで苗を植えて行きます。気がつくともうという間に田植えが終わりました。

田植えの終わった初夏の田んぼには、シュレーゲルアオガエルやオオヨシキリの声が響きます。松子川にゲンジボタルやヘイケボタルの光が輝くのもあと少しです。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)7月 『ホタルのまたたく光に感動！』

今年のゲンジボタルは、例年より早く5月末に飛び始めました。4月まで川の中にいた幼虫は、上陸して土にもぐり蛹（さなぎ）になります。蛹から成虫になると、わずか1週間ほどで交尾をし、卵を残します。

小雨の降る中、6月11日のホタル観察会には、町民や船橋市立一宮少年自然の家からも大勢が参加しました。ゲンジボタルの出現数もピークに近く、ホタルを初めて見る子どもたちは感動していました。

ヘイケボタルは、成虫が見られただけでなく、幼虫の上陸も続いていたため、7月末まで見ることができそうです。

※ホタルを見に行く際には、近所の方や鑑賞している人の迷惑にならないようご注意ください。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)9月 『水辺のすすめ』

一宮町は、上流域から海まで、生物で溢れる何とも頼もしい“水辺”に恵まれています。自転車で走ると、そんな一宮の水辺の魅力が楽しめます。

7月、エサ取り中のダイサギ、アオサギを見ながら田園地帯を抜け、海まで行くと、一宮町地曳き網保存会の音頭で、多くの方が地曳き網を引いていました。イワシ、サバ、アジ、カマス、エビ、カニからエイ、サメまで、実に多様な魚がとれて、普段は見えにくい、海の生物の豊かさを実感できました。

8月、上流の、憩いの森と洞庭湖の間の松子川に行くと、ジョロウグモの亜成体が、水面の上に美しい網を張っていました。きっと、沢山の餌が捕れる場所なのでしょう。

最近ネイチャークラブでは、小学生によるネイチャーキッズも川の調査に活躍中です。みなさんも、この豊かな“水辺”と一緒に楽しみませんか？

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



▲地曳き網 2022 7.17 朝 新浜海岸

(茂原商工会議所主催、一宮小・東浪見小 1~3 年希望参加)

令和4年(2022)10月 『舞妓さんの名前の赤トンボ』

古代米の稲穂が垂れ、収穫を待っています。周辺を赤トンボが活発に飛び回る光景は秋の風物詩です。その中であって最近、姿を消しつつある赤トンボがいます。青白い顔と鮮やかな赤色をした「マイコアカネ(舞子茜)」です。顔が舞子さんの化粧姿を連想させることからこのきれいな和名がつけられています。約3cmと小さく、あまり動かず葉上にじっとしています。生息場所も限られています。松子に限らず国内各地の減少が続く、多くの都道府県で絶滅危惧種に指定されています。

身近な赤トンボですが、大切に见守っていきたい里山の貴重な財産です。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中



令和4年(2022)11月 『田んぼの水路にも松子のメダカ！』

洞庭湖周辺の里山では、秋の草花、とりわけ野菊が賑やかな季節になりました。洞庭湖は、江戸時代に一宮藩主の加納久徴によって作られた、農業用のため池です。

一宮川以北の九十九里平野の水田は利根川から両総用水が引かれています。ところが、一宮川以南の水田は、洞庭湖や周辺のため池の水によって灌漑されているのです。

洞庭湖には松子川の水が流れこみます。そして、下流の水田の水路にはメダカやヌマエビ、時にはウナギの幼魚などを見つけることができます。もしかしたら、松子のメダカも流れ着いているかもしれません。そんなつながりを考えながら秋の里山を感じてください。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！



令和4年(2022)12月『今年も稲刈りが無事終わりました。』

10月29日、松子の田んぼで、緑米（古代米）の稲刈りを行ないました。当日は雲一つない秋晴れに恵まれ、子どもから大人まで収穫作業に汗を流しました。稲を鎌で刈り取り、束ねて「おだ」に掛けるという昔ながらの作業です。子どもたちも一生懸命手伝ってくれました。

お昼には昨年収穫した緑米のカレーがふるまわれ、みんなで美味しくいただきました。今年は稲の生育がよく、稲刈りはお昼を過ぎても終わらず、夕方近くまでかけて4枚の田んぼの収穫作業を終えました。

整然と「おだ」に掛けられた稲が、夕日で金色に輝くさまは壮観でした。

※ 「おだ」は、竹などで柱をつくり、横木を掛けたものです。そこに稲を掛けて天日干しで乾燥させることを「おだかけ」と呼んでいます。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 小池 070-4027-7098

Facebook「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！

